

NPO法人 都市災害に備える技術者の会

第1回 幹事会 議事録要旨

- 1 日 時：平成21年11月21日（土）14時～17時20分
- 2 場 所：大田ジオリサーチ 大阪営業所
- 3 出席者：伊藤，太田，片瀬，西山，山田（以上5名，敬称略）
- 4 議事要旨

9月に幹事会（仮称）設立準備会が開催され、幹事会（仮称）設立に向けた議論が行なわれた。その結果、既存の理事会を補完する組織として幹事会を発足することを決定した。その後、公募等で選出された幹事参加のもと、11月21日に正式に幹事会として発足するとともに、同日、第1回幹事会を開催し、今後の活動のあり方等について検討、協議を行なった。

幹事会の議事内容について以下に概要を示す。

（1）幹事会の組織について

○幹事会（仮称）設立準備会の議事録にもとづき、準備会での議論内容について説明。

主な内容は

幹事会設置に向けたこれまでの経過

幹事会設置の必要性やその目的 など

○幹事長の選出

○幹事会規約の作成について

○幹事会の運営の考え方（開催頻度等）

当面の予定として来年1月の災害対策セミナーのアンケート調査が集計された後、速やかに幹事会を開催し、取組内容の評価等を行ない、今後の取組計画について議論する。その他、当NPOが関与するイベントの開催に先立って幹事会を開催し、実施内容の計画立案や評価を行なう。

○**幹事会の位置づけ** 様々な角度から検討、議論を行い、最終的には「理事会」の下に置き、これを補完するという考えで合意。また総会への関与について問題提起があり、本来は、総会の議事内容については幹事会で議論して総会で諮るべきものであり、幹事会の本来の役目の一つであるとの結論にいたる。

○その他

・イベント（震災対策技術展など）の開催後に技術士会が実施しているアンケートなどを参考に、次回以降のイベント内容に反映させることが重要であり、幹事会で議論する。

・研修会についての議論。

研修のあり方や内容等について幹事会で議論し、会員のニーズを反映させる取り組みを進めるようにすべきである。

・ネットワーク作りについての意見交換

行政とのネットワークについては行政と市民との橋渡しになることを目的。

行政間のネットワークを作る目的が良くわからない。

行政間のネットワークは難しい。国土交通省が各自治体との情報交換の枠組を既に持っており、NPOとしてどのようなことできるのか、目指しているのかが不明。

いろんなNPOがあるが、これらをネットワークすることで新しいことが生まれるのではないかという意見あり。行政とはちがう相手（建築関係の技術者集団もあれば心理学や社会学に根ざした集団もある。）とのネットワーク化の必要性和模索。

・毎日放送の大牟田氏との今後の協議について

大牟田氏は災害時の情報発信のあり方をひとつの課題として取り組んでいる。

NPOの取組についてマスコミとの連携を進め、場合によってはマスコミを利用した情報発信を検討してはどうか。

・今後の活動内容の集約

今までの活動内容について報告書的にまとめることが必要。

活動内容をネット上に掲載することやホームページに写真やコメントを載せることも効果的。

参考 「k-t-e-c」のホームページを参考にする。

以上のような議論を行ない

○**幹事会の目的**として以下の点を確認した。

- ・イベントの内容の計画立案
- ・研修計画の立案
- ・自治体や市民団体とNPOとのネットワークのあり方
- ・設立趣旨に沿った活動の促進

(2) NPOとしての事業の方向性や今後の取組について

(意見交換内容)

- ・会員の持つ専門的な能力は多種多様であり、資金的にも潤沢な状況にあることを踏まえ、幹事会でこれらの「資源」をうまく生かす取組や活動を検討していくことが重要。
- ・幹事会の役目は「企画、立案、指示、方向性、見解付け」などで実働組織ではない。
- ・ネットワーク化については、たとえば、A市の取組を当NPOが情報を入手した場合、この情報をB市に仲介して提供するなど、いろんなネットワークの造り方が考えられる。
- ・NPOの活動をマスコミを通じて流すことも有効な手段となる。たとえば毎日放送の「1.17」で活動内容を放送すればそれなりのインパクトになるのではないか。
- ・3, 4年前、NPOの人が行政機関へPRを目的として出向いていた経過があるが、今後はどのような対応をしていくべきなのか？

何を目的としていたのか良くわからないところがある。当初は受注という目的も活動内容のひとつにあったことから営業活動の一環としての必要性もあったが、最近の社会情勢から、NPOが特命等で受注すること困難である。したがって行政に積極的に出かける必要はないのではないか。

- ・平成16年の発足以降、「現地へ行かないのか」という課題も据え置かれている。一方、様々な相手に出前講座を実施してきた実績も着実に蓄積されている。これらについてはもっと内部、外部の発信していくべきである。
- ・「谷埋め盛土の危険性」についてWG等で検討を進めてきた。WGの実績として一定の結果も得られているが、この結果をどのように住民に説明していくのが、デリケートな問題として浮上している。たとえば、計算結果から、住んでいるところが危険と分かった住民に住んだらだめとはいえない。
 - 客観的な事実を住民に説明し、住んでいる人に安全なようになるよう取り組んでもらうよう働きかけることが重要。
 - 住民と行政の間に立ち、中立的な立場から課題に取り組み、客観的に分かりやすく説明するのがNPOの役目の一つと考えるが、現実はなかなか難しい問題がある。
 - 情報発信の方法は個別相談を受けたものについて対応していくというスタンスでいいのではないか。

(3) まとめ

(1)、(2) に示したようにNPOの今後のあるべき姿について各幹事の様々な思いや意見の交換を行なった。

各幹事の意見の集約として、「NPOとして何をしようとしているのか、何ができるのかをしっかりと考えていく」ことが幹事会の中心的な課題であることを確認し、今後、議論していくことになった。

この議事録は全会員に配布する。